

国頭村立国頭中学校永島孝嗣先生学校訪問

(1) 単元名： 都市と郊外の成り立ち

(2) 本時の目標： 大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしていることを理解し
地元の発展について考える。

今年2回目の学びの共同体スーパーバイザーの国頭村の学校訪問である。一学期の6月には佐藤学先生に訪問いただいた。今回、二学期は麻布教育研究所研究員の永島孝嗣先生に訪問いただき、翌日の隣の辺土名小学校の訪問も含め2日間の滞在予定である。

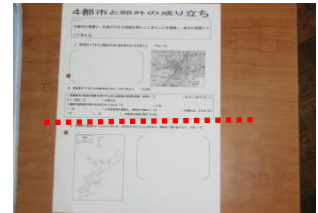
国頭村が平成24年度から村をあげての教育施策として取り組んで3年目になる。ここからが勝負である。勝負と言っても当然勝ち負けではない、継続への挑戦である。国頭中も校長先生が替わり、もともと定臨の多い沖縄では、職員の入れ替わりも多い。幸いに現任の金城校長先生が「学びの共同体」に理解を示し今年度も、「学び合い・支え合う」授業づくりが進行している。本日は今年度赴任してきた定臨の教師である。実に謙虚で慎ましく穏やかで温かみを感じる教師である。



[授業導入] 本時のめあてを確認した後、デジタルTVで大阪郊外の地図と私鉄を投影しグループ活動に下ろした。右のワークシート上段部分である。



教師の言葉が淡々としている。無理がない。もともと声が大きいのであろう教室の隅々までしっかり声が届いている。このしっかり届いているが大事である。単に物理的に聞きやすい声でなく、生徒たちの聴こうとする心が向けられているかが大切である。教師の言葉を慎み、生徒の声を大切にしたい教師の姿勢がうかがえる。がんばれ！



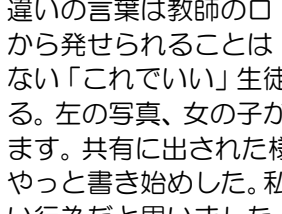
[グループへ] 一斉に生徒たちが向かい合う。グループの中でボソボソと「気づき」が交わされる。

この教室の生徒たちが、小学校の6年生の時から「学び合う授業」はじめられた。中学校へ上がった時にこの生徒たちが戸惑わないように村内の小学校すべてが共通実践に挑戦した。この生徒たちの姿が3年目である。対話を苦手とする生徒もいるが、投げ出さず向き合っている。学び合いからの逃避は見られない。



[共有する] グループでできた気づきを共有する

教科書のレベルである。生徒たちは何の躊躇もなく自分たちグループの気づきを全体の共有に提供する。「同じ」や「気づかなかった～」が共有の価値を高める。右の写真、女生徒の言葉を教師がリボイスしながら確かめる。正解や間違いの言葉は教師の口から発せられることはない「これでいい」生徒に判断させるのが一番である。左の写真、女の子がワークシートをまとめています。共有に出された様々な考えや、意見を聴いてやっと書き始めました。私はこの生徒の行為は実に賢い行為だと思いました。



[聴き合う]

仲間が発言する時に仲間に向けられる眼がいい。発表者も仲間が「聴く」という行為で支えられる。



【ジャンプ課題】 素晴らしいジャンプ課題である。今日、大阪の都市計画の例を習った。
 課題：「沖縄に鉄道をひくことになりました。あなた達ならどう鉄道や駅を設置しますか？」
 自分達の地元の発展も考えてグループで計画してください → グループへ



「どうする？」大変な作業ではあるが、生徒たちの顔は歪まない。むしろ楽しんでいる。大阪とは違う「沖縄では」がある。(メリット、デメリット、地元の発展)

- ここは田舎、南に人が集中している
- 観光客が多く、北部にも観光地がある。(美海水族館は本部町)
- 米軍の基地がある。
- 北部は自然が豊かである。

【協同的活動】 写真①、教室全体の風景である。いろんな性格が共存する教室である。互いを認め合い、個人の尊厳が行き届いているか？仲間の考えや意見をどう受け止めているか？否定はしていないか？私たち教師の眼は大胆で繊細な眼をもたなければならない。写真②、静かな男子生徒2名、かなり積極的に引っ張る女生徒…しかし、グループ内では全く嫌みがなく笑顔で淡々と作業が進められている。お互いの「その人らしさ」が認められている。じつにいい空気が流れている教室である。ちなみに授業者が担任でもある。

「学びの共同体」の目指す授業づくりは、生徒の関係づくりである言っても過言ではない。授業者も自分のクラスの「支え合う」姿に一喜一憂してほしい。素敵なクラスは授業で安心を獲得する。



写真①



写真②



写真③

【シレンマ】 写真④、北部の東海岸に鉄道がひかれていない。地元の発展？



写真④

安田区出身の女の子に訊いてみた「なぜ」
 女の子：発展するのいいけど、自然をもっと大切にしたいし、人が多くなると…笑み
 辺土名までは車で十分いけるので駅は辺土名と辺戸岬まででいい。・・・納得させられる。

私が浅はかでした。発展もいいけど大切にしたいものもある。事実、私がこの田舎にこだわるのも自然の海、山、川がるからである。



写真⑤

【共有する】 米軍基地のアメリカ人も、みんな沖縄の仲間！

それぞれのグループの鉄道プランが紹介される
 米軍基地の外国人も、一緒になってみんなが仲良く楽しくできる街づくりがいいと言う。全くその通りである。これも私が浅はかな考えであった。ありがとうございました。



【一枚の写真】

この授業者の参観では必ずと言っていいほど教師のこの姿が見られる。フロアに膝をつき、生徒と目線を同じにし小さく語っている。対話が滞るグループや個人には、絶対的にかかわってほしい。教師の低い姿勢が素敵である。



Y・K先生、お疲れ様でした。4月に赴任してから5ヶ月・・・どうですか国頭中の居心地は。生徒たちはほんとに楽しそうなクラスですね。部活動指導や生徒指導、いろいろ大変とは思いますが、先生だけが大変にならないように、職員室の仲間に遠慮なく依存し、支え合ってください。さて授業は…4月からの印象としてだいぶ授業のテンションも下がり、言葉も少なくなりましたね。余裕を感じさせるぐらいでした。授業の質や学びの質についてはいずれお話ししましょう。いまは、「このスタイルの授業で行くんだ！」「このスタイルでの授業づくり学級づくりへの挑戦だ！」自信をもって進んでください。

あなたが「もういい」と考えた瞬間に教室は壊れ始めます。果てしない夢への挑戦を応援します。
 焦らず ゆっくり 楽しく行きましょう。

素敵な授業に感謝します。
 国頭学びの会ゆい